

大妻タイムズ

OTSUMA TIMES

CONTENTS

地域との交流	1
地域との連携	2
地域文化理解	3
大妻さくらフェスティバル	4

地域との交流

2022年度秋の花植え(アダプト)活動報告

【千代田キャンパス】

11月24日(木)午前、大妻女子大学家政学部児童学科の学生52人と教員・助手、九段小学校、九段幼稚園、地元の三番町町会、(株)プランナー・ワールド、子育て広場「あい・ぽーと麹町」、千代田区社会福祉協議会と本学地域連携推進センター職員が連携・協力し、午後には大妻中学高等学校園芸部の生徒21人と顧問、大学教員が、三番町町内周辺の「番町学園通り」「大妻通り」の街路樹下の植樹樹(ます)に花植えを行い、約100カ所の植樹樹は、パンジーやピオラ、ノースポール、マリーゴールド、ミニハボタン、ストック、キンセンカなど約2,500株の花で鮮やかに彩られました。

また、東郷公園整備後に設けられた九段小学校との間の花壇には、学生と幼稚園児・幼稚園教諭が花植えを行いました。

花の名前を先生に教わって花植えをする園児、花の名前当てクイズを楽しそうに繰り返しながら積極的に花を植える児童の姿が印象的でした。



アダプト活動とは

市民と行政が協働で進める街の美化プログラムのことで、アダプト(Adopt)は「養子にする」を意味する英語です。公共の場所を養子にみ立て、市民がわが子のように愛情をもって世話(清掃美化)をし、行政がこれを支援する制度のことです。

千代田区ホームページ「アダプトシステム」

<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kurashi/volunteer/adapt.html>

【多摩キャンパス】

毎月第3土曜日(10:00-11:30)に唐木田コミュニティセンター(からぎだ菖蒲館) まちづくり部会の方々と実施しているアダプト活動に、10月15日、多摩キャンパスの学生8名が参加しました。朝から晴天で残暑の中での活動となりましたが、熱中症・感染症に注意しながら90分間、力を合わせて唐木田駅前とからぎだ菖蒲館のフラワーボットに金魚草、ナデシコを無事植え替えました。

当日は菖蒲館まつりも開催されており、多くの来館者にも声をかけていただき、充実した時間となりました。

2023年度からは、唐木田駅前のフラワーボットに低木の木を加えて、立体感を持ったより見ごたえのある植栽を計画中で、イルミネーションや飾り付も学生に期待されています。また、9月には「オレンジガーデニングプロジェクト多摩」にも参加しました。

オレンジガーデニングプロジェクトとは

「認知症になっても暮らしやすいまちをみんなで創っていこう!」という思いを共有し、楽しみながら花を育て、全国各地でオレンジ色の花を咲かせるプロジェクトです。



地域との連携

共同公開リレー講座 ちよだで学ぶ2022 ―モノ・コト・ヒト／現在・過去・未来―

地域連携推進センター／千代田区キャンパスコンソーシアム※では、秋の公開講座として、皆さんの好奇心をくすぐる身近なテーマの2講座を実施しました。

配信期間 9月9日(金)～10月31日(月) (2講座共通)

実施方法 オンデマンド(動画配信) (2講座共通)

〈講座〉「書く心」へのアプローチ～なぜ、人は書くのか?～

講師 樺山 敏郎(家政学部 児童学科 教授)

〈講座〉カレーのカガク

講師 田口 裕基(短期大学部 家政科 食物栄養専攻 専任講師)

キャリア形成支援講座 ～未来予測が困難な時代のキャリア形成を考える～

生産年齢人口の減少と年々深刻化する働き手不足、新卒一括採用の見直しやジョブ型雇用への注目の高まり、ビッグデータやAIの先進的技術のビジネスや日常生活での利活用など、近年の社会環境は大きく変化しています。

この講座は、このような変化の時代におけるキャリア形成を、学び直し、働き方、メンタルヘルスなどの切り口から、皆さんにお考えいただけるような機会を提供することを目的とし

て、千代田区キャンパスコンソーシアム※がオンラインで開催しました。

対象 社会人の方をはじめ、講座内容に興味のある方 (2講座共通)

実施日 9月26日(月)～10月12日(水) (2講座共通)

実施方法 オンデマンド(動画配信) (2講座共通)

〈講座〉ポストデフレの働き方と学び方

講師 井上 俊也(キャリア教育センター 教授)

〈講座〉ポストコロナの女性の働き方と学び方

講師 澤田 裕美(キャリア教育センター 常勤特任講師)

大妻女子大学で「学生版KUG(帰宅困難者支援施設運営ゲーム)」を実施

2月22日(水)千代田キャンパスにおいて、「学生版KUG(帰宅困難者支援施設運営ゲーム)」を実施しました。本企画は、2022年度をスタート年度として2024年度までの計3年間での千代田学共同提案事業の一環で実施するもので、災害大国である我が国において学生の防災に対する意識を向上させるだけでなく、日常生活において学ぶ機会が少ない帰宅困難者支援施設をどのように運営するのかという点について学ぶことを目的としています。

当日の進行は、本事業の共同研究者である下坂智恵教授(短期大学部)と堀洋元准教授(人間関係学部)が協働して

行い、堀准教授のゼミ生8名と千代田区キャンパスコンソーシアム※の教員・学生の計12名が3グループに分かれてゲームに参加しました。

KUG終了後参加者からは、「避難所だけでなく帰宅困難者を受け入れる施設でもさまざまな方が存在し、どのような人を最優先で保護するか考えさせられる契機となった」といった意見が挙がりました。進行役の先生方からは、「学生の視点による気づきは、教職員では思いもよらないものがあり、その発想を取り入れることができると“新しい防災”が生まれる可能性がある」と総括があり、充実した内容となりました。



KUGの概要説明を行う下坂教授と堀准教授



KUG実践の様子



グループ別発表の様子

※「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」の略称

地域文化理解

2022年度後期集中授業「地域文化理解Ⅱ」を開講

2月6日(月)から2月10日(金)に後期集中授業「地域文化理解Ⅱ」を実施、協定を締結している京都女子大学から6名、

本学から25名、合計31名の学生が受講しました。

1日目 三國清三シェフにより「フランス料理の真髄」というテーマで、フランス料理の歴史と日本料理の食文化について講義。続いて「カプチーノシャンピニオン」を実演。きのこの水分を引き出し煮詰め、エキスを出して生かすという、師M.アラン・シャペルのスペシャリテの一品は、某国の大統領にも振る舞われた料理だそうです。

午後からは、浅井拓也講師によるパティシエの基本技術の講義。実習・試食のメニューは「Oeuf a la naige (ウ・ア・ラ・ネージュ)」。フランス語で、oeuf (ウフ) は卵、neige (ネージュ) は雪を意味し、卵白と砂糖できめ細かく泡立てたメレンゲを、沸騰させない湯で時間をかけて中までしっかり火を通したものの、「流行りのお菓子を作ることは簡単だが、それだけしか作

ることができないようでは意味がない。応用力が身につくように、基本技術がいくつも必要とされるこのお菓子を選んだ」と説明がありました。

●三國 清三 講師 20歳で在スイス日本国大使館の料理長就任。三つ星レストランで修業を重ね1985年にオテル・ドゥ・ミクニを開店。現在、子供たちの食育活動や江戸東京野菜の普及活動のほか、YouTubeチャンネルを開設して幅広い層に料理を伝えている。



●浅井 拓也 講師 オテル・ドゥ・ミクニシェフパティシエ。2017年フランスアルザス地方の銘店ジャック、パリのブラザアテネで1年間研修。

2日目 平塚未来講師による日本料理の歴史とだし汁についての授業。日本料理の作法、変遷、昆布や鰹節などのだし汁の違い、米の正しい研ぎ方と美味しいご飯の炊き方、盛り付けの特徴について学びました。

●平塚 未来 講師 服部栄養専門学校 日本料理専任教授。服部学園で教鞭をとりながら、食育活動や日本料理のイベントでのデモンストレーションにも積極的に取り組んでいる。

3日目 本道佳子講師によるヴィーガン料理の研究の経緯、メリット、種類についての講義。野菜が持つ自然の色味を生かした色鮮やかで食欲をそそる料理の実習を通して、食材の代用について、講師に熱心に質問する学生の姿がありました。

●本道 佳子 講師 和ヴィーガン料理人。NPO法人国境なき料理団代表。2018年ミラノにて世界ヴィーガン選手権「ベジタリアンチャンス」で、日本人初第2位受賞。

4日目 終日フィールドワーク。食を通じたまちづくり事業について三菱地所(株)が行っているプロジェクトの紹介。大手町のTOKYO TORCH常盤橋タワーを中心に丸の内エリアを視察し、「ワーク・イン・ライフの時代に『東京の都心』に求められる役割や機能について考える」というテーマでグループワーク、女性が働きやすい環境とは何かを考えました。

●井上 友美 講師 三菱地所(株)エリアマネジメント企画部マネージャー。商業部門にて新丸ビルなど商業施設の企画運営、PR、ブランディング事業に携わる。

●谷沢 直紀 講師 三菱地所(株)TOKYO TORCH事業部。企画ユニットのユニットリーダー。

5日目 井上祐子講師による管理栄養士の立場からみたスポーツ選手の食事、栄養素を計算した「炊き込みご飯(主食)、簡単ナムル(副菜)、みそ汁(汁物)」の実習授業。献立のコンセプトは、「スポーツ前後にも最適」「手軽に作れる(乾物・缶詰の活用)」「食材を生かして減塩効果」。

●井上 祐子 講師 (株)タイアップ 管理栄養士。栄養教諭保持、食品の適正表示推進者、HACCP技能者。管理栄養士として、三笠宮家、ホテルオークラ東京、ソシエテミクニに携わる。

学生の声

地域文化理解での5日間の集中授業では、プロの料理人の方々の手元を目の前で見ることができ、想像以上の経験と知識を得ることができました。今回の授業を通して、食の世界は知れば知るほど奥行きがあり、多様性であることを身にしみて感じることができました。今回の経験は私の中で大きく響いており、受講できたことを本当に誇りに思います。

学生の声

直接先生方と関わることができ、調理に対する熱意と多くの刺激を受けました。実演からは調理の自由さに驚き、状況や状態を見極めることがより大切なのだと気がつき、料理に対する概念が変わりました。代用食材や食感を増すためなどの工夫の際の選択肢が広がり、調理の原理などから料理への面白さを感じ、より食に興味がわき、学びたい熱意があふれました。



大妻さくらフェスティバル

「大妻さくらフェスティバル2023」を開催

▲おーたんと記念撮影

千代田さくら祭りの一環として「大妻さくらフェスティバル2023」を、3月18日（土）千代田キャンパスにおいて開催しました。2019年3月以来4年ぶりの対面開催でした。

朝から春雨が降り続いていましたが、メイン会場の本館E棟・F棟には千代田区長と千代田区役所職員、地域の方々、子ども連れの卒業生など815名が来場、また、特別企画会場の博物館、図書館にも多くの方が見学に訪れました。

大妻コタカ記念会会長の井上小百合氏の講演会では、創立者大妻コタカ先生の教えでもある、①人格を高める努力の大切さ、謙虚な心、思いやりや感謝の心、それらをもとに誠実に生きること、②世のため人のために尽くすことは自身の目標に向けての原動力になること、を説明しました。

春休み小学生講座は、「理科実験教室」：化石掘り

体験～火山灰調べ、「工作教室」：①とにかくつくってみよう、②新聞エコバッグをつくってみよう、③間伐材を使って工作をしよう、「体験教室」：①ハーバリウムをつくろう！②桜模様のセッケンカービングつくろう！③キャンディ型のおい袋をつくろう！④君だけのカレー粉をつくろう！、と計8講座開催しました。

公開講座を担当した元厚生労働官僚の村木厚子氏（学校法人大妻学院理事）は、日本の女性活躍の現状、女性が働くことに関わりの深い法律・制度、働き方改革でやるべきこと、ご自分の経験から「公務員になった理由、ライフイベント、子育てのこと、職場の評価、人生100年時代に必要になること」などを講演しました。



千代田区長・樋口高顕氏



井上小百合氏



村木厚子氏



航空教室



北海道美瑛町の魅力紹介コーナー



理科実験教室



工作教室



大妻コタカ生家模型